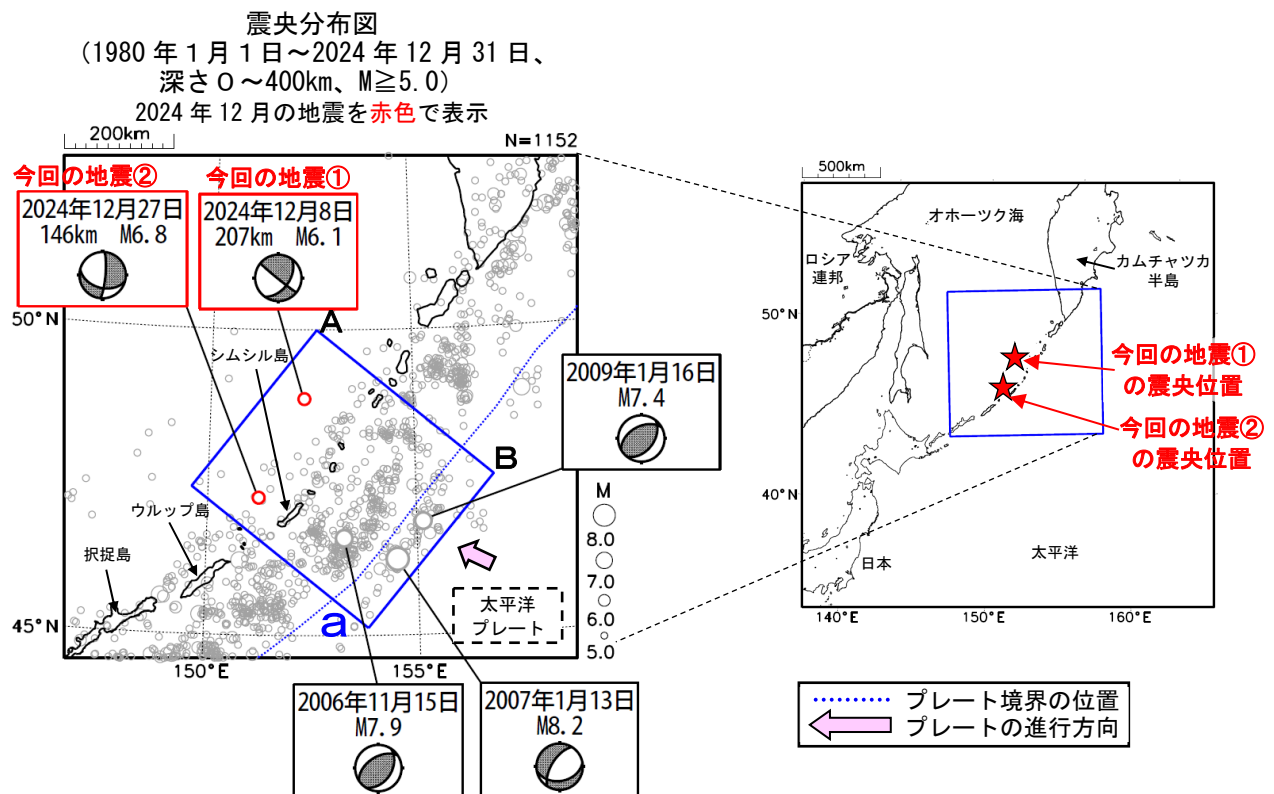


12月8日、27日 千島列島の地震

2024年12月8日19時25分（日本時間、以下同じ）に千島列島の深さ207km（米国地質調査所（以下、USGS）による）でM6.1の地震（日本国内で観測した最大の揺れは震度1、今回の地震①）が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は東北東－西南西方向に圧力軸を持つ型である。また、同月27日21時47分には千島列島の深さ146km（USGSによる）でM6.8の地震（日本国内で観測した最大の揺れは震度2、今回の地震②）が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、北西－南東方向に圧力軸を持つ型である。これらの地震は太平洋プレート内部で発生した。

1980年以降の活動をみると、今回の地震の震源周辺（領域b）では、M6.0程度の地震が時々発生している。今回の地震の南東に250km程度離れた浅い場所では、2006年11月15日に発生したM7.9の地震（日本国内で観測した最大の揺れは震度2）が発生し、三宅島坪田で84cmなど、オホーツク海沿岸から太平洋沿岸及び伊豆・小笠原諸島にかけての広い範囲で津波を観測した。その約2か月後の2007年1月13日に発生した千島列島東方（シムシル島東方沖）の地震（M8.2、日本国内で観測した最大の揺れは震度3）では、三宅島坪田で43cmなど、北海道日本海沿岸北部からオホーツク海沿岸、太平洋沿岸及び伊豆・小笠原諸島にかけての広い範囲で津波を観測した。



断面図で震源が線状分布しているのは、震源の深さを10kmまたは33kmに固定して、震源を決定しているためである。

※震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2025年1月6日現在）。ただし、吹き出しを付けた地震の発震機構、Mは気象庁による。プレート境界の位置はBird(2003)*1より引用。

*1 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.